高校生・大学生の就業体験

インターンシップの受け入れ

―― 障害のある人達と接し、生の声から自分なりに社会のあり方を模索する ――

財団法人共用品推進機構

1. この実践を計画するにあたって

障害があるなしに関わらず、誰でもできることとできないことがある。
そのことを認識すると、障害ということを特別な目で見なくなる。

まずは相手の良さを理解し、相手のできないことを知る。そして自分ができることはなにかを考える。自分ができなければ、誰となら、どこでならそれができるかを考える。それは、障害のあるなしに関わらず、人として人同士が付き合っていく上で重要な考え方であると言えるし、共用品のいくつかは前述の思いの連続によって生まれていることも、また事実である。

障害があるためにどんなに努力してもやる気があってもできないことがある。共用品はそのどうしても“できない”ものを“できる”に変えるものである。

共用品を知ることは、その製品自体の配慮を知るだけでなく、その生まれた背景（人の思いや生き方そのもの）を知ることであり、これらのことを子どもの頃から知ることは、子ども達の健全な成長を促す上で必要不可欠な要素であると考える。

またこれらの授業を行う教師や指導者にとっても、子ども達と共にバリアフリー社会のあり方を考えることは新たな社会を構築する上で大変重要な点と言える。

共用品授業を実施することで、子ども達の心の中ある「自分以外の誰かのことを思う気持ち」が更に広がる。

その気持ちがはっきりしはじめると、自分の知っている障害のある友達や地域の人達をもっと知ろうと努め、さらには自分の知らない障害のある人や高齢者にも関心を持ち、その人達が“不便さを抱えて困っている”のであれば、自分にできることは何か考え、実際にどのように行動すればよいかを考えることができるようになってくる。

しかし、その過程で最も注意しなければならないことは、“障害のある人＝かわいそうな人”だから“やさしくしてあげる”という考え方を持ってしまうことである。この考え方はとても簡単に理解できる点であるため、授業にも取り上げやすい。しかしこの考え方だと、“同じ人間同士の対等なつきあい”とは程遠くなってしまう。

10代半ば～20代前半までの子ども達（生徒・学生）においては、この時期に共用品授業を経験し正しく理解することによって、人に優劣を付けるのではなく、対等に付き合うことを学ぶと同時に、自分の役割に気付くことができることも大きい。

2. 高等学校における就業体験

高校生が、共用品の思想やモノ作りの考え方を知ることによって、共用品はすべての分野で利用可能な概念であることを知り、日常生活を送る上で共用品の背景等を理解したり実例を見たり聞いたりし、自分達の心の中で消化することによって考え方の幅が広がっていく。

生徒達の中には、障害のある人達に出会ったことのない人も多く、障害のある人達とのかかわりの多い弊局での就業体験を通して、障害のある人と構えることなく接することができるようになる。

共用品関連の就業体験においては、障害のある人と実際に接し、その時々瞬時に適切な判断しなければならない場面もあるため、「これは失礼なことになるかな?」「これを言うと怒られるかな?」などと長々と考えるより、素直に相手に尋ねることが必要となる。

多くの生徒は、これまでに障害のある人に触れ合ったことがないため、障害のある人に対して特別な感情を抱きやすい。また指導者である教師自身もその傾向が強いため、必要以上に手や声をかけるなどして、かえって混乱することもある。

分からないことは障害のある人に素直に聞く、間違った対応があれば直ぐに正すなどの基本的な態度を習得しながら障害のある人を理解し、また障害というものはどのような時に感じ、どうすることで克服されるのかということを学ぶ態度が求められ、またそれらの環境を提供する側もこの点に十分留意しなければならない。

多くの場合は、指導者としての立場を維持し冷静に対応することは大切であるが、生徒達の心が動いた瞬間や場面においては、十分共感することで、より意識を高めることができると感じている。

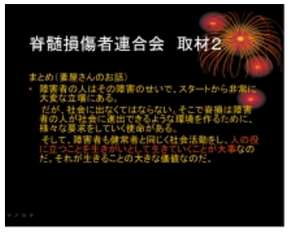
さまざまな共用品が展示された共用品推進機構の展示室

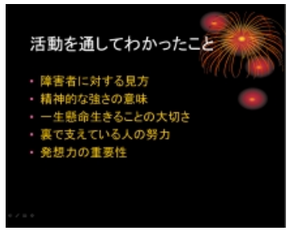
就業体験事例

生 徒 名　A君、B君、Cさん（3名）
期　　間　平成20年8月4日（月）から8月8日（金）までの5日間
最終目標　共用品推進機構と関係する障害者団体等をWEB調査や取材を通じて、障害のある人達の生活と共用品の関係についてまとめ、レポートを作成する。
体験を通して、自分達が得たことをパワーポイントにまとめ、最終日にプレゼンテーションを行い、多くの人に納得、理解してもらえるように報告する。また内容を情報誌にて紹介する。

日　時	項　目	内　容
8月4日（月）	◎共用品について知る。 ◎質問事項をまとめる。	◎共用品推進機構と関係する団体（障害者団体等）について、事前に調べる。 ◎取材先について事前に調べる。
8月5日（火）	◎取材先について事前に調べる。 ◎半日取材（目や耳の不自由な人達にとってのグッズや施設、団体などを訪問し、自分たちなりにまとめる） ◎半日取材の内容をまとめて、レポートにする。	◎取材内容をまとめて、レポートにする。 ◎共用品推進機構と関係する団体（障害者団体等）について、事前に調べる。
8月6日（水）	◎半日取材（目や耳の不自由な人達にとってのグッズや施設、団体などを訪問し、自分たちになりにまとめる） ◎半日取材の内容をまとめて、レポートにする。	◎半日取材（目や耳の不自由な人達にとってのグッズや施設、団体などを訪問し、自分たちなりにまとめる） ◎半日取材の内容をまとめて、レポートにする。
8月7日（木）	◎半日取材（目や耳の不自由な人達にとってのグッズや施設、団体などを訪問し、自分たちなりにまとめる） ◎半日取材の内容をまとめて、レポートにする。	◎半日取材（目や耳の不自由な人達にとってのグッズや施設、団体などを訪問し、自分たちなりにまとめる） ◎半日取材の内容をまとめて、レポートにする。
8月8日（金）	◎取材内容をまとめて、レポートにする。	◎取材内容をまとめて、プレゼンテーションをする。（共用品推進機構事務局内で）

<生徒A君のPPT例>





2. 大学生のインターンシップ

これまでの経験から、多くの情報を整理できる時期であり、社会に出てから自分の進むべき道や、進みたい道などが明確になってくる人も多くなる。そのため、情報分野（IT）、規格分野（JIS、ISO）、医療分野等においても、広く共用品の考え方が取り入れられており、すべての分野で役立つ「共用品」をこの時期に知っておくことはとても重要であると考える。共用品の考え方を知り、理解することは、社会に出た後に人との接し方やモノを見る目や考え方の幅が広がることが期待できる。

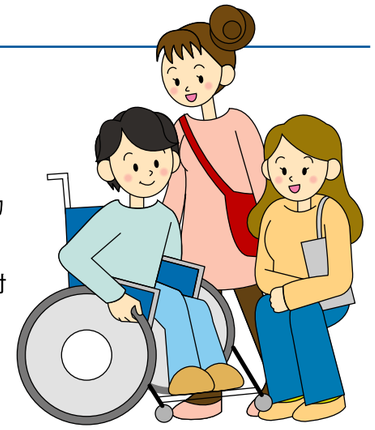
多くの場合は、指導者（教授や准教授、講師）等の共用品へ対する理解や興味によって講義やゼミ等に取り入れられるケースが多く、常設展示室（東京都・千代田区）や各大学において共用品をテーマにした授業を展開している。

また、個別に調査したり障害のある人や関連業界団体、障害者団体にインタビューを行ったり、インターンシップで、共用品の考え方や障害のある人と接しながら対応を柔軟に学び、共用品を卒業論文のテーマにする学生もいる。

またインターンシップなどを終えた学生は、卒業後も何らかの形で、共用品の思想を心にとめており、しっかりとした視点で物事を捉えられる目を養っていることが特徴である。

インターンシップ事例

学 生 名　Aさん、Bさん（2名）
期　　間　14日間
最終目標　◎1日、2日目:イベント準備・情報収集・整理
◎3日目～5日目:A博物館　共用品講座講師として説明/職員の補助
◎6日目～8日目:講座で使用した教材等のチェックと課題抽出
◎9日目～14日目:子ども向け展示会においての効果的な方法の検討と、関連する事項のまとめ。
今後につながる感想シート（自由記述）の作成。



<A子さんの感想一部抜粋（インターンシップを通じて）>

この三日間に様々な方がみえました。外国人の方、耳の不自由な方、知的障害をもっている方、小さな子からお年寄りの方まで様々な方がみえました。その中でわかったことは、外国人の方には英語、耳の不自由な方には手話をつかえば共感できるということです。当たり前のことですが、今回のイベントを通してみんなで共感できるということはとても素晴らしいことだと改めて感じました。そして、自分は今までとても狭い世界で生きていたのだなと気付きました。

共用品を学んでいく上で『共用品の第一歩は他人のことを知るということ』と学びました。

世の中には様々な人がいます。身体が不自由な人、背の高い人、低い人、右利きの人、左利きの人、お年寄り、赤ちゃん・・・誰もが使いやすい、生活しやすいのが共用品です。共用品は誰にでも密接に関係しています。

今回のサイエンススクエアを通して、この共用品をもっと多くの人に知ってもらいたいと今まで以上に思うようになりました。共用品推進機構のブースに来た子ども達が、大きくなった時、心の片隅に覚えていてくれたらいいと思います。

自分が共用品推進機構にインターンシップに来てから半分が過ぎました。この短時間に多くの方に会い、話をし、本も読みました。そして、自分の身の周りの物への見方、考え方が変わりました。今まで海外旅行に行っても気にも留めなかった海外のバリアフリー事情のお話を聞いた時はもったいないことをしたなと反省しました。一つの考え方を知っているだけで吸収できるものは増えるということを知りました。そして、自分に足りないものも見つけることができ、目標もできました。残りわずかですが少しでも多くのことを吸収できたらと思います。